

2021 年度入学者選抜について（予告）

平成 31 年 3 月 4 日

都留文科大学では 2021 年度の入学者選抜を以下のように見直します。

【趣旨】

1. 文部科学省高等教育局長「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について（通知）」を踏まえ、本学の入学者選抜において、本学のアドミッションポリシーに基づき「学力の 3 要素」
 - (1) 知識・技能
 - (2) 思考力・判断力・表現力
 - (3) 主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度を多面的・総合的に評価するものへと改善します。
2. すべての入試区分において、高大接続、学力の 3 要素評価の観点から調査書を合格者の判定に活用します。

【入試区分の変更】

入試区分については、以下のように変更します。

変更前	変更後
一般入試	一般選抜
AO（アドミッション・オフィス）入試	総合型選抜
推薦入試	学校推薦型選抜

【文学部 国文学科について】

国文学科のすべての入試区分において、受験者の合否判定の資料として調査書を活用します。また、合格者の入学後の教育にも活用します。

国文学科の「大学入学共通テスト」を活用する試験（前期一般選抜、中期一般選抜）では、「国語」と「外国語」の教科を受験必須とします。「大学入学共通テスト」の「国語」では、記述式問題の結果を点数化し、マークシート式の得点に加点します。また、外国語の「英語」には、「英語」の一領域として実施される「リスニングテスト」を含みます。なお、外国語の「英語」に関しては、「大学入学共通テスト」のみを対象とし、民間資格・検定試験の結果を利用することはできません。

学校推薦型選抜では、従来どおり、調査書・推薦書における民間資格・検定試験の結果を活用します。

■ 前期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、調査書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に、調査書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では3教科3科目型の選抜方法を用います。その際、「国語」と「外国語」を必須とします。

■ 中期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、第二次学力検査（個別学力検査）、調査書により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、個別学力検査、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、個別学力検査、調査書を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では3教科3科目型の選抜方法を用います。「国語」と「外国語」を必須とします。

■ 学校推薦型選抜

〈選考方法〉

小論文と調査書・推薦書の総合判定により合格者を決定します。日本漢字能力検定、語彙・読解力検定、実用英語技能検定試験の資格（いずれも準2級以上）、TOEFL iBT、TOEIC、TOEIC Bridge、GTEC のスコアを推薦書中の「活動・資格等の記録」における評価の対象に含めます。

小論文（800字程度）/90分

※小論文は、国語の基礎的な学力に関する出題も含みます。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書・推薦書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文、調査書・推薦書を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に小論文・調査書・推薦書を活用します。

【文学部 英文学科について】

学科のアドミッションポリシーに基づき「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に測ります。

■ 一般選抜（前期日程入試）

〈選考方法〉

「調査書」「志願書」を活用し「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を測ります。

〈試験利用教科・配点〉

(1) 3教科3科目型・計400点

(2) 5教科5科目型・計600点

出願要件ではないが、CEFRのA2以上あるいはそれに相当する英語の能力を有する者が望ましい。

● 外部試験活用の方法として、CEFRのB2以上あるいはそれに相当する英語の能力を有している場合は、大学入学共通テストの英語の得点を満点とみなします。

■ 一般選抜（中期日程入試）

〈選考方法〉

「調査書」「志願書」を活用し「主体性・多様性・協働性」を測ります。

〈試験利用教科・配点〉

国語は必須ではなく、配点は100点満点とします。

英語の個別試験の配点は200点満点とします。

1) 3教科3科目型+英語個別試験=合計600点

2) 5教科5科目型+英語個別試験=合計800点

英語の個別試験では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を測ります。

出願要件ではないが、CEFRのA2以上あるいはそれに相当する英語の能力を有する者が望ましい。

● 外部試験活用の方法として、CEFRのB2以上あるいはそれに相当する英語の能力を有している場合は、大学入学共通テストの英語の得点を満点とみなします。

■ 学校推薦型選抜（推薦入試）

出願資格は、全体の評定平均値が**3.8以上**。

〈選考方法〉

「調査書」「志願書」を活用し「主体性・多様性・協働性」を測ります。

「小論文」が70パーセントで、「事実の記録」が30パーセントの割合で合否判定を行います。

「英語の問題」は、英語の基本的な読解力と表現力を見る問題形式であり、それによって、「知

識・技能」「思考力・判断力・表現力」を重点的に測ります。

出願要件ではないが、CEFRのA2以上あるいはそれに相当する英語の能力を有する者が望ましい。

■ 総合型選抜(AO入試)

● エントリー資格

[資格評価型]

- 1) 実用英語技能検定試験(英検)の2級以上を取得している。準1級以上の場合、実技試験は免除されます。
- 2) TOEICで490点以上を得点している。730点以上の場合、実技は免除される。(推薦入試とは異なり、IPテストのScore Reportは認められません。)
- 3) TOEIC Bridgeで155点以上を得点している。(推薦入試とは異なり、IPテストのScore Reportは認められません。)
- 4) TOEFLで次の条件を満たしている。iBT(インターネット版)で48点以上。79点以上の場合、実技は免除される。(推薦入試とは異なり、ITPのスコアは認められません。)

[活動評価型]

- 1) 都道府県レベルの英語スピーチ・コンテスト(レシテーション・コンテストは除く)において3位以内に入賞したことがある。
- 2) 高等学校在学中に、英語で授業を行っている海外の高等学校に一学年相当留学したことがある。
- 3) 日本語(国語)以外の科目の授業を英語で行っている国内および海外の高等学校を卒業している。

「調査書」「志願書」を活用し「主体性・多様性・協働性」を測る。

実技は「英文の日本語要約」「英文和訳」「日本語の英文要約」「和文英訳」で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

口述試験では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を総合的に測ります。

【文学部 比較文化学科について】

比較文化学科のすべての入試区分において、調査書および志願書は、比較文化学科のアドミッションポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に用います。

比較文化学科での「大学入学共通テスト」を活用する試験について、前期一般選抜、および中期一般選抜では、「国語」および「外国語」の受験を必須とします。大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜では、「国語」および「地理歴史・公民」「外国語」の受験を必須とします。その際、「大学入学共通テスト」の「国語」では、記述式問題の結果を点数化し、マークシート式の得点に加点します。また、外国語の「英語」には、「英語」の一領域として実施される「リスニングテスト」を含みます。「外国語」の「英語」に関しては、「大学入学共通テスト」のみを対象とし、民間資格・検定試験の結果をそれに替えて使用することはできません。

なお、比較文化学科の大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜、学校推薦型選抜では、従来どおり、民間資格・検定試験の結果を、調査書（従来の推薦書を含む）の「活動・資格等の記録」において活用します。

■ 前期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」および「外国語」を必須とします。

■ 中期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、第二次学力調査（小論文）、調査書、志願書により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、個別試験（英語）を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、個別試験（英語）を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」および「外国語」を必須とします。

■ 大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」および「地理歴史・公民」「外国語」を必須とします。

■ 学校推薦型選抜

〈選考方法〉

小論文、及び提出された書類の総合判断により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

【文学部 国際教育学科について】

国際教育学科のすべての入試区分において、志願書、調査書は国際教育学科のアドミッション・ポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に用います。

国際教育学科での「大学入学共通テスト」を活用する試験（前期一般選抜、中期一般選抜、大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜）では、「国語」と「英語」の両教科を受験必須とします。

「大学入学共通テスト」の「国語」では、記述式問題の結果を点数化し、マークシート式の得点に加点します。「英語」は従来のマークシート式と同様の取り扱いとします。また、外国語の「英語」には、「英語」の一領域として実施される「リスニングテスト」を含みます。

■ 前期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。
 - 「大学入学共通テスト」では3教科3科目型の選抜方法を用います。「国語」と「英語」の両方を必須とします。

■ 中期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、第二次学力調査（小論文）、調査書、志願書により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。
 - 「大学入学共通テスト」では3教科3科目型の選抜方法を用います。「国語」と「英語」の両方を必須とします。

■ 学校推薦型選抜 I（従来の一般推薦）

〈選考方法〉

小論文、及び提出された書類の総合判断により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。
 - 出願資格は、評定平均値 3.8 以上とし、CEFR の A2（英検準 2 級レベル）以上の英語能力を有する者としてします。

■ 学校推薦型選抜 II (従来の IB 推薦)

〈選考方法〉

小論文、及び調査書、志願書、面接等により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文と面接を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。
 - 出願資格として CEFR の A2（英検準 2 級レベル）以上の英語能力を有する者とし、IB 科目のうち日本語 A の取得者で、5 点以上取得した科目が 1 つ以上ある者としてします。

■ 大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。
 - 「大学入学共通テスト」では 3 教科 3 科目型の選抜方法を用います。「国語」と「英語」の両方を必須とします。
 - 出願資格として CEFR の A2（英検準 2 級レベル）以上の英語能力を有する者としてします。

■ 総合型選抜 (従来の AO)

〈選考方法〉

小論文、プレゼンテーション(課題論文や特に学んだり、探究したテーマについて)、面接、調査書、志願書等により選考を行います。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、プレゼンテーション、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文、プレゼンテーションを活用します。

3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

- プレゼンテーションは、DP 取得者は課題論文の写し、それ以外の者は特に学んだテーマや探究したテーマについて、事前にその内容を書いた文章を提出し、それについて発表をおこなってもらいます。

出願資格

- CEFR の A2（英検準 2 級レベル）以上の英語能力を有する者
- DP フルディプロマ取得者（日本語 A を取得している者が望ましい）
- 海外留学もしくは海外在住経験 1 年以上で、現地の学校やインターナショナルスクール等で英語による科目の単位取得者
- スーパーハイスクールで特に顕著な学業上または活動上の実績を修めた者
- 都道府県レベルの高校の英語スピーチコンテストや英語ディベートコンテストで 3 位以内に入賞したことがある者
- 以下の者は、小論文は満点と見なします。
英検準 1 級以上、TOEIC730 点以上（ただし IP テストの Score Report は認めない）、
TOEFL iBT（インターネット版）で 79 点以上

★英語の外部試験については、原則として、受験時から 1 年以内のスコアもしくは高校時代に取得した英検とします。

【教養学部 学校教育学科について】

学校教育学科のすべての入試区分において、調査書および志願書は、学校教育学科のアドミッションポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に用います。

学校教育学科での総合選抜型入学試験 III 期以外の「大学入学共通テスト」を活用する試験（前期一般選抜、中期一般選抜、大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜）では、「国語」、または「数学」の教科を受験必須とします。「大学入学共通テスト」の「国語」では、記述式問題の結果を点数化し、マークシート式の得点に加点します。「数学」の記述式の段階別成績表示については、正誤のみの判定であること、および大問の中でマークシート式問題と一体で出題され記述式問題にも配点されることから、従来のマークシート式と同様の取り扱いとします。また、外国語の「英語」には、「英語」の一領域として実施される「リスニングテスト」を含みます。なお、外国語の「英語」に関しては、「大学入学共通テスト」のみを対象とし、民間資格・検定試験の結果を利用することはできません。

■ 前期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」または「数学」のいずれかを必須とします（両方選択することも可能）。

■ 中期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査（「大学入学共通テスト」）、第二次学力調査（小論文）、調査書、志願書により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」または「数学」のいずれかを必須とします（両方選択することも可能）。

■ 大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では「国語」または「数学」のいずれかを必須とします(両方選択することも可能)。

■ 学校推薦型選抜

〈選考方法〉

小論文、及び提出された書類の総合判断により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

■ 総合型選抜第Ⅰ期

〈選考方法〉

調査書、自己アピール書(活動実績を含む)、小論文、面接等により選考を行います。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するために、主に自己アピール書(活動実績を含む)、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するために、主に小論文、調査書、面接を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するために、主に自己アピール書(活動実績を含む)、調査書、面接を活用します。

■ 総合型選抜第Ⅱ期

〈選考方法〉

小論文、実技・プレゼンテーション、調査書、自己アピール書(活動実績を含む)、面接等により選考を行います。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、実技・プレゼンテーション、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文、実技・プレゼンテーションを活用します。

3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、自己アピール書（活動実績を含む）を活用します。

■ 総合型選抜第 III 期

〈選考方法〉

調査書、自己アピール書、口頭試問、面接、学力検査（「大学入試共通テスト」）により選抜を行います。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、口頭試問、大学入試共通テスト、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に口頭試問を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、自己アピール書、面接を活用します。

なお、「大学入試共通テスト」では、理科 2 科目により選抜を行います。具体的には下表 A または B のいずれかを選択していただきます。

A	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 2 科目
	「物理」「化学」「生物」「地学」から 1 科目
B	「物理」「化学」「生物」「地学」から 2 科目

【教養学部 地域社会学科について】

地域社会学科のすべての入試区分において、調査書および志願書を導入し、地域社会学科のアドミッションポリシーに照らし合わせ、志願者の適性判断に用います。

地域社会学科の前期一般選抜及び大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜の入学試験において、新たに「大学入学共通テスト」の「国語」を受験必須とします。「国語」では、記述式問題の結果を点数化し、マークシート式の得点に加点します。「数学」の記述式の段階別成績表示については、正誤のみの判定であること、および大問の中でマークシート式問題と一体で出題され記述式問題にも配点されることから、従来マークシート式と同様の取り扱いとします。また、外国語の「英語」には、「英語」の一領域として実施される「リスニングテスト」を含みます。なお、外国語の「英語」に関しては、「大学入学共通テスト」のみを対象とし、民間資格・検定試験の結果を利用することはできません。

■ 前期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では、新たに「国語」を必須とします。「外国語」の必須を外し、選択とします。

■ 中期一般選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、第二次学力調査(小論文)、調査書、志願書により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

■ 大学入学共通テスト利用学校推薦型選抜

〈選考方法〉

第一次学力検査(「大学入学共通テスト」)、調査書、志願書により合格者を決定します。個別学力試験等は実施しません。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に「大学入学共通テスト」を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

なお、「大学入学共通テスト」では、新たに「国語」を必須とします。

■ 学校推薦型選抜

〈選考方法〉

小論文、及び提出された書類の総合判断により合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主に調査書、志願書を活用します。

■ 活動評価学校推薦型選抜

〈選考方法〉

提出された研究・活動実績説明書、調査書、志願書等の書類の総合判定により第1次選考を行います。第1次選考合格者に、小論文、プレゼンテーション、及び面接を課し、第2次選考の成績のみで合格者を決定します。

〈観点別評価項目〉

1. 「知識・技能」を評価するため、主に小論文、プレゼンテーション、調査書を活用します。
2. 「思考力・判断力・表現力」を評価するため、主に小論文、プレゼンテーション、面接を活用します。
3. 「主体性・多様性・協働性」を評価するため、主にプレゼンテーション、調査書、志願書、面接を活用します。